広報 Ibaraki Public Information
いばらき
2024年（令和６年）
６月１日　発行
6
No.1107
June 2024

◆編集・発行
茨城町 町長公室 秘書広聴課
〒311-3192
茨城県東茨城郡茨城町小堤1080
☎ 029－292－1111
メールアドレス
ibarakit@town.ibaraki.lg.jp

◆人口
住民基本台帳
令和６年４月末現在
男　15,474人
女　15,282人
総人口　30,756人
世帯数　13,640世帯

◆茨城町民憲章
1 ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
1 からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
1 隣人や家庭の愛を大切にして、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
1 自分の仕事に責任と誇りをもち、活気に満ちた町をつくりましょう。
1 文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。

◆町の花　桜
◆町の木　梅
◆町の鳥　うぐいす

◆町の防災行政無線が聞き取れなかった場合
防災行政無線テレフォンサービス
☎０８００－８００－８８４８
（通話料無料）
町ホームページにも放送内容を掲載しています。

◆町の情報発信中!!
- 町公式ホームページ
https://www.town.ibaraki.lg.jp/
- 町公式Ｘ（旧ツイッター）
https://twitter.com/IbarakiTownMati/
- 町公式インスタグラム
https://www.instagram.com/townibaraki_official/
- 町公式ライン
https://page.line.me/?accountId=ibarakitown

里山に育む生きものたち

No.143　スイバ
（ナデシコ目　タデ科）

学名　*Rumex acetosa* L.

写真・文　安　昌美

▼スイバとは

ギシギシ属に含まれる多年草で、国内では北海道～沖永良部島以北に生育し、国外では北半球の温帯に広く分布し、南半球にも帰化しているといいます。ヨーロッパにも生育しており、現在の植物学名の出発点となった『植物の種（1753年）』に、当時知られていた700種の植物の学名が発表されており、学名ではそのなかにいるそうで、そのなかにスイバの学名が含まれています。現在もそれが使用されており、学名では一番古いものの一つになります。

県内でも各地に見られ、町内でも地名を記録するまでもなく、やや湿った路傍や堤防、水田地帯の農道によく見られます。「スカンポ」の名で呼んだ経験のある人は少なくないと思います。また、若い葉などを噛んで、名前の由来（酸い葉）を確認した人はさらに少ないでしょう。花期は春から初夏で、目立ちます。若葉は食用になりますが、たくさん食べると有毒です。

雌雄異株で、花粉は風で運ばれます。ギシギシ属の特徴のある果実を付けている株は、当然ながら雌株です。花期に虫眼鏡で見ると、雄株の雄花では黄色の葯が目立ち、雌株では雌花の赤色の房状に分かれている柱頭が見えます。

▼スイバの性比

被子植物では一般に繁殖力のあるめしべ・おしべが一つの花にある両性花、両性花でもおしべとめしべの熟する時期が異なる花、どちらか一方を持つ単性花、同じ個体でも成長の過程で性転換する種類など、植物の性表現は実に多様で複雑です。

雌雄異株のスイバは、1923年に木原均・小野和夫両氏により性染色体が発見されています。その後スイバの性決定と性染色体の研究が進み、現代も性決定の仕組みが研究されているそうです。

自然集団でのスイバの性比（雌／雄）が調べられています。調査年や調査者もばらばらですが、雄株に対する雌株の数が、京都市では3.4倍、仙台市では3.7倍、東京都では1.3倍、茨城県では2.7－4.6倍、福岡県では5.0倍、高知県では4.0倍となっているようです。国外だとイギリスでは0.77－1.33－5.55倍、ポーランドでは1.33－5.55－6.66倍です。雌株が多いのが一目瞭然です。雌株がなぜ多くなるのかの仕組みの研究も進んでいるようです。

ちびっ子アート　いばらき中央認定こども園

「すてきなじょうろ」
はしもと　こうへい（６歳）

「家族で釣りをしに海へ出発！」
いしくら　たいせい（５歳）

再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK 環境に優しい大豆油インキを使用しています